

令和元年度 第4回 荒尾市総合計画審議会 議事録要旨

- 【日 時】 令和2年2月4日（火） 14:30～16:30
- 【場 所】 荒尾市役所 11号会議室
- 【出席委員】 別紙のとおり
- 【事務局】 石川総務部長、田川政策企画課長、奥村総合政策室長、
丸本、平山

記録者：政策企画課 平山

1. 開会

田川課長が開会を宣言し、配付資料の確認を行った。

2. 新委員紹介

田川課長が、前回会議以降に新たに委員に就任された方を紹介した。その後、荒尾市総合計画条例第7条第1項に基づき、副会長の選任を行った。事務局提案により、高木委員が副会長に選任された。

3. 会長あいさつ

荒井会長があいさつを行った。

- ・これまで3回の審議会を通じ、現行の総合計画の検証等を行ってきており、委員各位の意見も踏まえながら素案としてまとめたところである。
- ・限られた時間ではあるが、素案に対して各所属団体の立場からご意見をいただき、これからのまちづくりの方向性を取りまとめていきたい。

4. 議事

荒尾市総合計画条例第8条第2項に基づき会長が議長となり、荒井会長が以降の議事を進行した。

(1) 第3回荒尾市総合計画審議会における協議経過について

奥村室長が、資料1に基づき説明を行った。質疑等はなかった。

(2) 第6次荒尾市総合計画(仮称)の素案について

平山が、資料2-1及び資料2-2に基づき説明を行った。表題については、「第6次荒尾市総合計画」とすることで了承を得た。主な意見等は以下のとおり。

《主な意見等》

- 横文字の用語が出てくるが、意味などについて解説を付記してほしい。また、具体的な施策の実行に当たっては、各部課において事務事業を実施していくことになろうが、職員の教育を含め、実効性をどのように確保していくのか。

さらに、今回、地区別計画を策定する予定であるが、当該計画の推進に当たり、地区担当職員制度の運用や財政支援などをどのように考えているか。

- 各種用語については注釈として説明を加える。

また、計画の実効性の担保については、PDCAサイクルを十分に機能させていくことが重要だと考えており、それぞれの具体的な施策に基づく事務事業ひとつひとつについて毎年度成果検証を行い、本審議会においても検証をしていくことで、確実に推進していきたいと考えている。

さらに、地区別計画については、地区協議会を中心に作成しており、地域の特性を踏まえながら、地域の自主性を尊重しつつ、協働で取り組む地域づくりの目標を明らかにするとともに、それを地域内・地域と行政とで共有するためのものとして作成している。計画の推進に向けても地区担当職員を各地区3人1組で任命しており、地域住民と一緒に地域課題の解決を図る体制を組んでいるところである。(事務局)

- ワークショップなどを丁寧に行い、良い計画ができてきていると考えているが、基本目標の構成をはじめ現行計画から大きく変わっている部分があるので、変更の内容が分かりやすいようにまとめてはいかかか。

一方、数値目標等の妥当性を検証するに当たり、KPIにおいて現状値が入っていないものや数値が古いものがあるが、毎年度検証することができるものになっているのか。

さらに、中学卒業後の市外転出を抑制するという大きな目標に対応する施策が「基本目標①-(4)魅力ある教育環境の実現-(ウ)教育環境の整備・充実」だと思いが、全国平均を目指すという内容で目標が達成できるのか、事務事業が十分に検討されているのか、疑問が残る。

- 現行計画からの見直しのポイントについては、分かりやすいように体系的に整理して追記する。

また、現状値についてはご指摘のとおりだが、指標については、原則毎年度数値が把握でき、成果が検証できるものに揃えているため、進捗管理は可能であると考えている。

なお、中学卒業後の市外転出抑制に向けては、地元高校の魅力化に加え、学校教育やまちづくりへの参画の機会の充実などにより郷土愛に溢れる人材を育てていきたいと考えている。高校の魅力化については、県教育委員会とも連携しながら推進していきたい。(事務局)

- 移住の促進に向け、観光資源を活かした魅力の向上に努めることとされているが、そのためには観光資源自体の磨き上げを行うことが必要だと考えている。観光資源自体の魅力向上についても具体的な施策の中で反映した方がよいのではないか。

- 観光面では、それぞれの観光資源の周遊性を高め滞在時間を長くすることが必要と考えており、そのためには、観光資源の磨き上げだけでなく、広域的な視点での誘客戦略や観光協会をはじめとする関係団体との連携、戦略的な情報発信などが必要であると考えている。具体的な施策としては「観光地域づくりの推進」や「インバウンド観光の推進」の中で取り組んでいきたい。(事務局)

- 現行計画において、KPIとして「万田坑入坑者数：14万人」という目標が設定されていたが、実績値は4万人程度と大きく下回っている。この要因についてどのように分析しているか。
また、今後は行政区ごとに防災リーダーの育成が重要だと考えている。

市では毎年総合防災訓練が行われており各地区が持ち回りで関わっているが、それだけでは10年に1回程度しか訓練を行わないことになるので、行政区ごとに毎年避難訓練を行うような仕組みづくりを促してほしい。

- 万田坑入坑者数については、世界遺産登録初年度は12万人程度であったため、さらに増やしていくという意識で14万人と設定していたところである。しかし、その後は年々下がっているのが現状で、その間、文化財としての保存はもとより、市民ガイドの育成や関連する資産とも連携した広域的な取組みを進めてきたが、目標が達成できなかったところである。今後も、関係団体と連携して新しい取組みを考えていきたい。

また、防災力強化に向けた仕組みづくりや市民の防災意識の向上は必要だと考える。新規事業については個別に提案いただけると所管課とともに検討していく。(事務局)

- 地域コミュニティにおいては、自治会加入率の低下や役員のなり手不足が深刻化する中でどのように団体間の連携を取っていくのかが重要であると考えられる。地区協議会の位置づけや必要性も問われているので、地域におけるネットワークが組織として機能するよう働きかけてほしい。

- 地域コミュニティに関する課題は単年度で解決するものではないが、令和7年度までの計画期間の中で1つでも多く解決できるよう努めていきたい。なお、地区協議会については、目的を達成するためには必要な組織であると認識しているため、くらしいきいき課を中心に、サポートを行っていきたい。(事務局)

- 合計特殊出生率について、出生数が大きく減っていることに鑑みると、最新の数値は1.6程度になっていると思われ、その中で目標値として2.0を掲げていることについて、実現可能性を心配する。とはいえ、荒尾市人口ビジョンを達成するためには必要な水準であるため、設定せざるを得ないのかとも思う。

また、人口減少が進行する中での自治体運営については、例えば市営住宅を活用し、維持管理を学生にしてもらう代わりに安く貸し出すなど、若い力を活かすための工夫をしている事例もある。

さらに、教育分野に関しては、若い世代のニーズを踏まえると、国際交流の機会の充実のため、外国と協定を締結することも必要になると考える。

なお、計画中に「高等教育」という表現が散見されるが、市内に大学や短大がない中であるので、「高等学校教育」という表現に修正してはいかがかと考える。

- 大牟田市内に就職する人が多くなっているのは、熊本県と福岡県で最低賃金に50円程度差がある影響だと思うので、福岡県の水準も見据え

- た引き上げに努めたいと考えている。一方、中小企業においては、人手不足が深刻化する中、女性や高齢者、外国人労働者の力が必須となっているが、市内就職の促進に向けてどのような事業を考えているか。
- 市内就職の促進に向けては、市内の中小企業等に就職し、かつ市内に居住している人に対する奨学金の返済支援をはじめ、高校等の進路指導の先生などを対象にした市内企業を巡るバスツアー、広報紙での市内企業の紹介、異業種交流や情報交換会の開催などに取り組んでいく予定である。(事務局)
- 玉名公共職業安定所管内でも、就職して地元に残る割合は3割という状況で、これまでも同程度で推移しているところである。対策として生徒向けの企業説明会や事業主との意見交換会などを実施しているところであり、今後も関係機関と連携していきたいと考えている。
- 行政協力員は、地域と行政をつなぐ重要な役割を担っていると考えているが、法改正に伴い廃止されることになっている。本制度がなくなった後について、本審議会においてはどのように関わっていくことを考えているのか。
- 行政協力会として各種審議会等に参画いただいている場面は多いと認識しており、行政協力員制度がなくなった後も、同様の組織として存続するのかどうかを検討されていることは把握しているが、本審議会における対応については今後検討していくこととしている。(事務局)
- 「基本目標③－(1)安定した雇用の創出と就職支援－(ア)企業立地の推進」のKPIが60人とされているが、600人の間違いか。
また、子どもを育てるのは女性だけの役割ではなく、男性の参画も必要であるので、その意識を持たせるための取組みが必要だと考える。
さらに、大牟田市では小中一貫教育の導入などが検討されている中、本市においても独自性のある教育を展開できるかどうか重要であると考えます。
その他、子どもの貧困問題やごみ処理施設の終了後の対応などについても検討してほしい。
- KPIについては間違いではない。昨年度は事業所の新設があったため高い実績をあげることができたが、そこを除くと妥当な目標値であると考えている。
また、男性の育児参画に関しては、地元就職の促進の中で働き方改革の推進として取り組んでいくこととしている。
さらに、教育分野に関しても、保護者のニーズを踏まえながら、魅力ある教育環境づくりのため、教育委員会と知恵を絞っていきたいと考えている。(事務局)

(3) 地区別計画の検討状況について

奥村室長が、資料3に基づき説明を行った。その後、荒井会長及び高木副会長が総括を行った。主な意見等は以下のとおり。

《主な意見等》

- 地区別計画は、誰がどのように作成するものか。また、推進に当たっては財政支援などがあるのか。
 - ワークショップで集まった意見を基に地区別計画として取りまとめており、各地区協議会の役員会等での意見交換を踏まえ、広く住民の意見を聞くために、現在各地区においてパブリックコメントを実施しているところである。今後、パブリックコメントの結果も踏まえ、各地区協議会において3月末に策定することを予定している。地区別計画はそれぞれの地区における地域づくりの方向性を示すものであり、来年度以降も引き続き取組み等を検討していくため、財政面を含めて行政としてもバックアップしていく。

- 人口減少が進む中、以前は1200社ほどあった会員数も800社ほどに減少しており、商店連合会についても9か所から3か所まで減少し、今後の存続を危惧している。定住人口を増やすためには、魅力的な商店や美味しい飲食店などが必要で、そのためにも魅力ある商工会議所にならなければならないと考えており、会員拡大に向けて活動を行っているところである。南新地地区のまちづくりにも大いに期待しているため、有明海沿岸道路の延伸に向けても活動を強化していきたいと考えている。(高木副会長)

- 目まぐるしく社会情勢が変化し、新しい考え方や技術がどんどん出てきている中で、従来どおりの手法でまちづくりを進めていけるのか、不安は大きい。総合計画は最上位計画であり、総合計画に基づき各種個別分野の計画が続いていく体系であるが、事務事業についても、新たな発想で、優先順位をつけて進める必要があると考えている。また、今回は地区別計画を併せて策定しており、2層化した計画をいかに進めていくかは行政としての手腕が問われるところであるが、ワンチームで頑張ってもらいたいと思う。(荒井会長)

5. その他

田川課長が、議事録等を市ホームページに掲載するに当たり、内容の確認について協力を依頼した。また、今後、2月7日から3月5日までパブリックコメントを実施し、その後、次回の会議を3月11日に開催する予定にしていることを報告した。

6. 閉会

田川課長が閉会を宣言した。

令和元年度 第4回 荒尾市総合計画審議会 出席者名簿

	団体名	役職名	氏名	備考
1	熊本学園大学	元経済学部教授	荒井 勝彦	
2	九州看護福祉大学	社会福祉学科准教授	橋本 真奈美	欠席
3	有明工業高等専門学校	校長	江崎 尚和	
4	荒尾商工会議所	会頭	高木 洋一	
5	一般社団法人荒尾市観光協会	会長	山代 秀徳	
6	玉名農業協同組合荒尾市総合支所	担当理事	迎 五男	
7	荒尾漁業協同組合	代表理事組合長	西川 幸一	
8	荒尾市金融団	代表 肥後銀行荒尾支店支店長	岡田 欣也	
9	連合熊本肥後有明地域協議会	議長	古賀 宏宣	
10	玉名公共職業安定所	所長	杉本 勝美	
11	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 熊本支部熊本職業能力開発促進センター	荒尾訓練センター長	植圃 悦朗	
12	荒尾市教育委員会	教育長	浦部 眞	
13	荒尾市三師会(荒尾市医師会)	会長	藤瀬 隆司	
14	荒尾市体育協会	会長	山口 賢一	
15	荒尾市文化協会	会長	田中 豊洲	
16	熊本県宅地建物取引業協会荒尾支部	支部長	村上 裕二	欠席
17	有明広域行政事務組合 (荒尾・玉名地域結婚サポートセンター)	総務課長兼介護保険課長	松野 成剛	
18	荒尾市社会福祉協議会	会長	丸山 秀人	
19	荒尾市子ども会連合会	会長	橋本 誠剛	
20	一般社団法人荒尾青年会議所	理事長	石崎 徹	
21	荒尾市老人クラブ連合会	副会長	深浦 昭雄	
22	女性ネットワーク荒尾	代表者会代表	坂田 尚子	
23	荒尾市PTA連合会	理事 荒尾第一小学校PTA会長	田中 桃子	
24	荒尾市行政協力会	会長	藪内 孝則	
25	荒尾市地区協議会会長会	会長	河部 啓宣	
26	公募委員	—	陣内 透	
27	公募委員	—	甲木 喜一郎	
28	県北広域本部玉名地域振興局	局長	村上 徹	
29	荒尾市	副市長	田上 稔	

※敬称略、順不同